

奨学金提供に対する奨学生のお礼

『奨学金は私達家族にとって本当に大きな助けになっています。』



ドアのない家の前のファイちゃんとお母さん

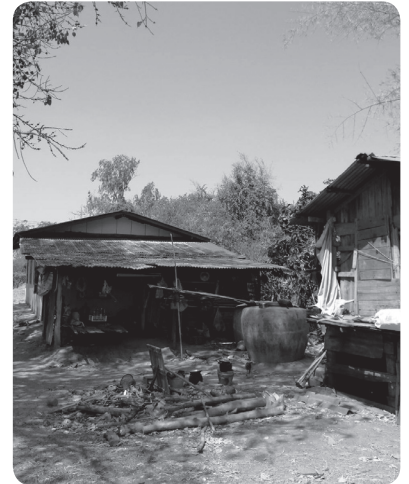
EDFではもうすぐやって来る2020年年末に向けて皆さんに
通称『ファイちゃん』、ワリーラット トンテープさんの話をご紹介
します。ファイちゃんは、2019年よりEDFの奨学金を受けて
いるコーンケン県のバーンドウーヤイ学校の中学2年生です。

ファイちゃんは、現在
14才、母親と小学生の
弟2人と一しょに4人で
住んでいます。また近所
には、母方の祖父母が
住んでいます。父親は、
随分前に母親と離婚し
て以来ずっと音沙汰が
ありません。そのため母
親は、細腕一つで3人の
子供達を養育しなけれ
ばなりません。現在、母
親は、ファイちゃんを通
う学校の給食調理員と
して働く傍ら『マットミ
ー』と呼ばれるタイ東北
地方の伝統緋手織物の
職人としても働いてい

織物の工程をの一つの「マットミー」
を見せてくれたお母さん

ます。ファイちゃんのお母さんが行う作業は織物が完成するまでの一
つの工程で、紐で思い描いた柄を糸や絹糸を括るといふもの
です。その後染色して織ると紐で括った柄が織柄として表れマ
ットミーと呼ばれる織物が完成します。朝8時から夕方5時ま
で紐を括り続けて一枚がやっと仕上がるそうです。その収入は
一日でたったの150バーツだそうです。ファイちゃんも土曜日と
日曜日にこの作業を手伝っているそうです。

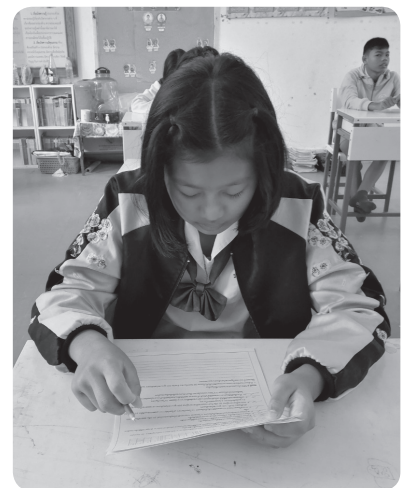
奨学金について次の
様に話してくれました。『
私は、奨学金を頂くこと
ができて本当にうれしい
です。奨学金は私達家族
にとって本当に大きな助
けになっています。奨学
金で制服を買ったりして
私達のために一人で働
く母の負担が軽減され
るようになりました。支
援者の方に深く感謝し
ています。どうもありが
とうございます。そして
緊張して何かからお話し
しているのかわからず
たいへん失礼してしま
いましたが、2020年
初めにわざわざ学校
や私の家まで訪ねて
くださりとてもうれし
かったです。』



近くにある母の祖父母の家

ファイちゃんは、私達に将来の夢についても語ってくれまし
た。『私は、最初農業をしたいと思っていました。でも、農業をす
るには土地が必要で土地を買うためには仕事に就かなくては
なりません。今は、まず中学を卒業してそのあとは、あまり費用
がかからない家の近くの職業訓練学校へ進学したいと思いま
す。そして実は、私にはもう一つの夢があります。それは先生
になることです。先生は公務員ですから生活も安定して家
族の面倒をみることもできて良い人生が開けると思います。』

EDFは、新型コロナウイルス禍の厳しい情勢の中にも拘らず、多くの支
援者の皆様から私達の活動に引き続いて深いご理解とご支援を頂
きましたことに対し、全ての奨学生に代わりまして厚く御礼を申し
上げます。本当に有難うございました。

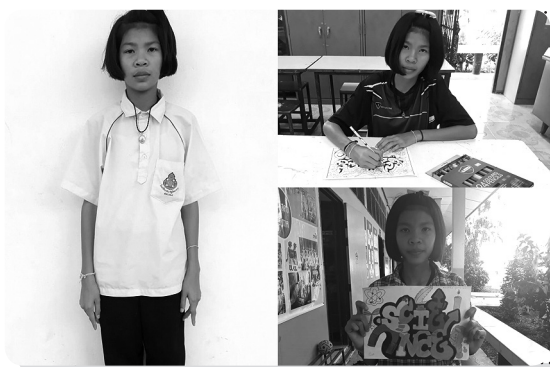


授業中のファイちゃん

現在の物価上昇を考えますとEDFの奨学金は十分とは言え
ないかもしれませんが、奨学金は、今、現在貧困に陥っている
子供達の家族の大きな救いの手となっていることに間違いは
ありません。どうぞ今後とも皆様のご厚意を賜りますようよ
しくお願い申し上げます。

こんな子どもたちにプレゼントを贈りませんか。

2020年クリスマス、お正月を迎えるにあたり、EDF(ダルニー奨学金)はタイ東北地方の農村部に住んでいる恵まれない子どもたちに贈るプレゼントセットのご注文をお受けいたします。この度、EDFの奨学生の一部と面談をして、プレゼントにはどんなものが欲しいのか、その理由と共に聞いてみました。



「私は文房具、色鉛筆と絵を描くノートが欲しいです。私には自分の色鉛筆のセットがありません。学校に無料で使える色鉛筆と紙がありますので、それを使って、学校で時間がある時に絵を描きます。私は絵を描くことが大好きで、将来、絵を描くことに関係した仕事、建築家とか画家になりたいです。ペン、消しゴムなどの文房具も、もうすぐなくなりそうなので、新しいものを自分で持っていくことが出来れば大変嬉しいです。」

アピッサラー 中学2年生、ナコンラーチャシマー県

「私は毎朝学校に行く前に早起きをして、牛が食べる草を運ぶ仕事をしてから、歩いて学校に通っています。私は、家から学校まで片道1.5キロを毎日歩いて通っていて、土日はピラ配りの仕事をしています。アルバイトで得たお金は、卵やお米を買って料理して家族で食べるのに使っています。私が一番欲しいプレゼントは、自転車です。学校や土日のアルバイトに、自転車で行くためです。」

ブンヤリット中学1年生、チャイヤブーム県



「僕は新しい靴が欲しいです。今の靴は僕が小学校6年生から履いていて、これ1足しかありません。学校に行く時、運動をする時、時々祖父母が田畑を耕す仕事をするのを手伝いに行く時も、いつも同じ靴を履いています。祖父母の収入はとても少なく、ふたりとも高齢です。政府からの年金は月600バーツです。毎日の食べ物と、僕と弟の学費を出すのがやっとです。」

ワチャラポン中学2年生、シーサケート県

「僕は学用品を入れるためのかばんが欲しいです。学校に毎日背負っていくリュックサックが古くなって、破れ始めています。土日は草刈りや芋掘りの仕事に行き、ペットボトルやお昼ご飯を入れるのにもこのリュックを使っています。弁当箱や水筒は、妹にも学校へ持たせています。」

アマリン 高校1年生、コーンケン県



“ このキャンペーンは2021年1月25日まで受付しております。ご興味のある方は同封の申込書をご利用ください。 ”
よろしくお願ひ申し上げます。